

3月23日は世界気象デー

今年のテーマは、「より暑く、より乾いた、より雨の多い - 将来と向き合う」
“Hotter, drier, wetter. Face the future.”

世界気象デーとは

世界気象機関(WMO)は、1950年(昭和25年)3月23日に世界気象機関条約が発効したことを記念し、毎年3月23日を世界気象デーとしてキャンペーンテーマを設け、気象業務への国際的な理解の促進に努めています。

今年のキャンペーンテーマは、
「より暑く、より乾いた、より雨の多い - 将来と向き合う*」です。

*原文は“Hotter, drier, wetter. Face the future.”

今年のキャンペーンテーマについて

WMOはこのキャンペーンテーマに沿ってウェブページ
(<http://www.wmo.int/worldmetday/home>)を公開しており、今年のキャンペーンテーマに関連して、パンフレットの中で次のように述べています。

気候は変化しつつあります。これは将来起こる状況の予測などではなく、今起きていることです。人間活動に伴う温室効果ガスの大気中への蓄積によって、気候はこれから数十年間、引き続き変化します。

大気中の温室効果ガス濃度は、2015年にはこれまで観測されたことのない値に達しました。二酸化炭素濃度は、産業革命以前の濃度280ppmに対して昨年の春には北半球で400ppmという象徴的な濃度を超えました。地球全体の平均の濃度も2016年には1年を通じて400ppmを超えるとみられます。

幸い各国政府は今、気候変動の科学的根拠、及び差し迫った行動をとっていく必要性を十分に認めています。特にエネルギー分野では、低炭素技術の進歩に、より多くの研究や投資が必要とされています。しかし、既に多くの政策や技術、行動が可能となっており、これらの展開を拡大していく必要があります。こうした取組に、個人レベル、地域社会のリーダー、ビジネス分野、市民団体、政府そして国連機関全ての貢献が求められています。

気象庁は、こうした気候変動対策に関して、特に気候変動の把握のための長期継続的な観測とそれに基づく解析情報や将来予測情報の発表等、科学的な側面から関係省庁や専門家とともに積極的に取り組んでいます。また、これらの情報は気象庁ホームページの地球環境・気候に関するポータルサイトからも公開しています。

(<http://www.data.jma.go.jp/cpdinfo/menu/index.html>)

気象庁は、WMO や各国気象機関、関係省庁・機関と協力しながら、引き続き気候変動対策等の課題に取り組んで参ります。

世界気象機関 (World Meteorological Organization : WMO) の概要

設立目的 気象業務に関する国際的な調整・標準化・改善や、気象情報の交換促進

設立 1950 年 (昭和 25 年) 3 月 23 日

事務局所在地 スイス・ジュネーブ

加盟構成員 185 か国・6 地域
(我が国は 1953 年 (昭和 28 年) に加盟)

ホームページ <http://www.wmo.int/>



WMO ビル (スイス・ジュネーブ)

問い合わせ先： 総務部企画課国際室

電話： 03-3212-8341 (内線 2267)